

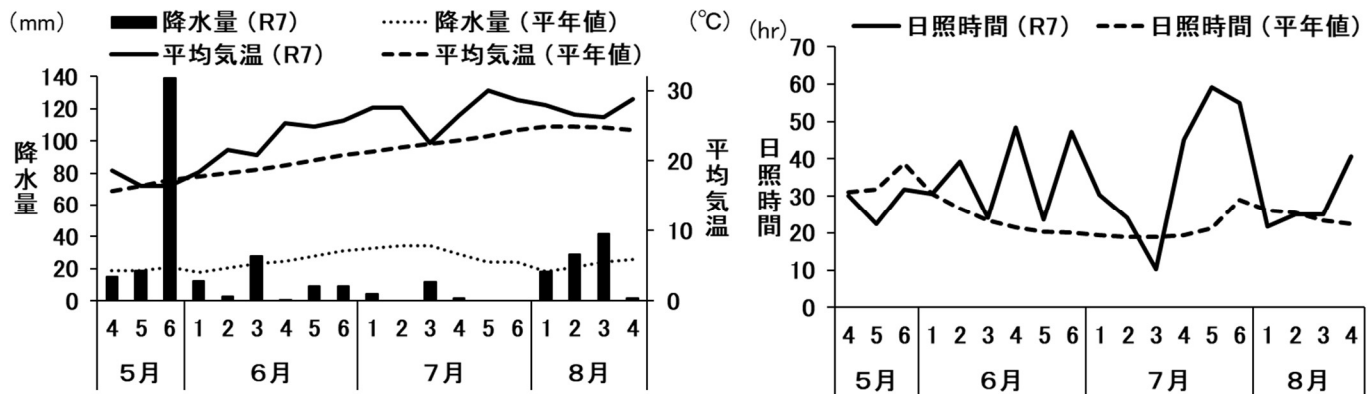
仙台大豆作情報

令和7年度第3号
令和7年8月21日発行
仙台農業改良普及センター
TEL 022-275-8410

○栽培管理のポイント

生育ステージを確認し、病虫害防除を適期に実施しましょう。

1 気象経過（5月第4半旬～8月第4半旬）



- ・播種が行われた6月中下旬は気温が高くなりました。7月以降も平年より気温が高い日が続いています。
- ・5月下旬に雨の日が続き、播種が遅れたほ場もありました。6月以降、降水量は平年より少なく推移しましたが、8月上旬から降雨の多い日がありました。
- ・日照時間は多い傾向で推移し、特に6月中下旬、7月下旬はかなり多くなりました。

2 生育調査ほの生育状況（8月12日調査）

品種 (地区)	調査年	播種日	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)	開花期
タンレイ (仙台市宮城野区岩切)	本年 (R7)	6月20日	42.1	12.5	3.5	8月4日
	前年 (R6)	6月16日	40.6	10.7	0.3	8月2日
	平年	6月11日	58.3	12.7	1.8	7月29日
ミヤギシロメ (仙台市若林区荒井)	本年 (R7)	6月18日	73.2	15.5	3.2	8月8日
	前年 (R6)	6月12日	77.9	15.2	3.7	8月5日
	平年	6月11日	71.5	14.8	3.8	8月4日

※「開花期」とは、初めて開花した株が全体の40～50%に達した日

※平年値は3か年平均

- タンレイは平年に比べて主茎長が短く、主茎節数は平年並であるものの、分枝数は多くなりました。8月12日には吸実性カメムシが確認されています。
- ミヤギシロメは、主茎長が平年よりも長く、やや蔓化しており、主茎節数は多く、分枝数はやや少なくなりました。また、高温・乾燥により、ほ場の一部でハダニの食害が見られました。
- 8月上旬頃から開花期に入っています。播種が平年より遅いこともあり、タンレイは平年よりも6日遅く、ミヤギシロメは4日遅く迎えました。

3 今後の栽培管理

(1) 病害虫防除

◎開花期や莢の状況等の生育ステージを見て、適期に防除を実施しましょう。

【病害虫防除体系】

処理時期	対象病害虫
開花期から莢伸長初期	紫斑病・ダイズサヤタマバエ・オオタバコガ・ツメクサガ
子実肥大初期から子実肥大中期	紫斑病・カメムシ類・マメシクイガ・フタスジヒメハムシ

①紫斑病

- ・開花期の 20～40 日後に 1～2 回薬剤散布を実施しましょう。特に**タンレイ**は紫斑病抵抗性が弱いので、必ず 2 回防除を実施しましょう。
- ・紫斑病は害虫との同時防除が可能なので、生育を見ながら適期に防除しましょう。
- ・管内でもアゾキシストロビン剤（アミスター20フロアブル）の耐性菌発生が確認されています。同剤で効果が低下しているほ場では、他の系統剤（**プランダム乳剤 25、ニマイバー水和剤、トライフロアブル**）の使用を検討しましょう。また、効果の低下がみられないほ場でも、同一系統剤の連用は避け、ローテーション散布を行いましょう。

②吸実性カメムシ類

- ・病害虫防除所の発生予報では、今後も高温が見込まれることから吸実性カメムシ類の発生量が多いとされています。
- ・子実を吸汁加害するカメムシ類は、若莢が着き始める頃から莢が黄熟する頃まで、莢内の子実を加害します。
- ・開花期以降に発生が見られるほ場では、**着莢期から子実肥大中期の間に 2 回薬剤を散布**します。
- ・越冬地（雑草地、山林等）付近では発生が多くなる恐れがあるので注意しましょう。



成虫（ホソヘリカメムシ）

③マメシクイガ

- ・莢に侵入した幼虫は子実の縫合線に沿って食害するため、商品価値を著しく低下させます。
- ・成虫の発生盛期は、概ね 8 月第 6 半旬～9 月第 1 半旬と毎年ほぼ同じです。8 月下旬とその 7～10 日後にかけて 1～2 回防除しましょう。
- ・大豆作付 4 年目以降に被害が多いので、**連作年数が長いほ場や前年の発生が多かったほ場では、本種に対して効果の高い剤（グレース乳剤、プレバソフフロアブル 5 等）を選択**しましょう。



マメシクイガ幼虫

④フタスジヒメハムシ

- ・成虫が若莢を食害し、そこからカビが侵入して黒斑粒（子実の表面に黒い点）や腐敗粒（白いカビで覆われる）となります。
- ・フタスジヒメハムシによる食害を確認したほ場があります。第 2 世代成虫が発生する子実肥大期（8 月下旬～9 月上旬頃）に防除しましょう。



フタスジヒメハムシ成虫

⑤ジャガイモヒゲナガアブラムシ

- ・吸汁されると葉に黄色い点々の吸汁痕が見られ、早期落葉を引き起こして収量や品質に影響を及ぼします。
- ・8 月下旬から 9 月上旬に密度がピークに達するので、**多発した場合は防除**を実施しましょう。
- ・葉裏に寄生するので、薬液が葉裏によくかかるように散布しましょう。



成虫（無翅虫）と食害痕

⑥タバコガ類（オオタバコガ、ツメクサガ）

- ・近年、県内でタバコガ類の幼虫が突発的に多発し、葉や莢を食害する被害が発生しています。今年度もオオタバコガまたはツメクサガによる食害が確認されたほ場があったので、注意が必要です。
- ・中齢幼虫期以降は莢に移動して加害することから、被害が大きくなる傾向があります。**8月以降、発生を確認した場合は速やかに防除を実施しましょう。**また、オオタバコガとツメクサガが混発した場合は、フェニックスフロアブルで同時防除が可能です。



中齢幼虫(タバコガ類)

⑦ダイズサヤタマバエ

- ・被害莢は一部が小さくなって虫こぶとなり、子実、莢とも生長が停止して極めて小さい莢あるいは奇形莢となるものが多くなります。また、開花直後の若い莢が被害を受けると、落夾することもあります。
- ・**開花後期から莢伸長初期に1～2回薬剤を散布しましょう。**

※記載した農薬は令和7年8月6日現在のものです。使用する際は農薬ラベルで登録内容を確認してください。

(2) 高温・乾燥対策

＜各生育ステージの乾燥による影響＞

花芽分化～開花始期	：花数の減少、落花・落夾の増加
開花終期	：落夾・不稔夾の増加
開花終期以降	：百粒重の低下（減収の要因）

○晴天が続くような場合には、畝間かん水で水分を供給するか、開花前から暗渠の水こうを閉じて水分保持をする等の対策を実施しましょう。

(3) 雑草防除

コンバイン収穫では、成熟期に雑草が残っていると汚粒の原因となり、手取り除草が必要となります。このため、必要に応じて茎葉処理除草剤の使用や早めの手取り除草を検討しましょう。

4 東北地方の向こう1か月の天候の見通し（8月21日仙台管区气象台発表）

- ・6月中旬以降、暖かい空気に覆われ、気温のかなり高い状態が続いています。向こう1か月の気温も、暖かい空気に覆われやすいため、高い状態が続くでしょう。
- ・6月下旬以降、高気圧に覆われ、降水量の少ない状態が続いている所があります。向こう1か月の日照時間は、高気圧に覆われやすいため、多いでしょう。

■宮城県農薬危害防止運動実施中（令和7年6月1日から8月31日まで）

宮城県では、6月から8月にかけて農作物等の病虫害が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。

- ・ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認しましょう。
- ・散布後には農薬の使用履歴を記帳しましょう。

■農業機械の事故防止対策・被害軽減対策

- ・ほ場周辺の危険箇所の確認、危険回避行動の実践
- ・危険箇所の改善
- ・シートベルトとヘルメットの着用
- ・安全フレーム付きトラクターの利用

■熱中症対策

- ・こまめな休憩と水分補給
- ・高温時の屋外での作業は極力避ける
- ・複数名で作業を行う
- ・身体を冷やす工夫を